

長野県就労移行支援プログラム評価 結果のお知らせ

この度は、お忙しいなか就労移行支援プログラム評価プロジェクトへご協力いただき、誠にありがとうございます。皆様の活動内容や、就労移行にかける思いをうかがわせていただくことで、私どもも今後の障害者の就労移行のあり方について、大変意義深い示唆をいただくことができいております。皆様の活動に敬服いたすととともに、評価プロジェクトへのご協力を重ねて御礼申し上げます。

つきましては、第1回目訪問調査のフィードバックとして、貴事業所の就労移行支援プログラムチェックシート（フィデリティ尺度）の得点のチャートグラフと評価結果に対する簡単な所見を送らせていただきます。ご参照いただければ幸いです。

平成30年度
長野県就労移行機能強化事業 「個別課題に向けた支援」

お問い合わせ：

NPO法人 障がい者雇用支援ネットワークながの

〈法人本部〉社会福祉法人 ともいき会内

長野市篠ノ井布施高田1034-3

026-214-2168

〈事務局〉社会福祉法人 ちいさがた福祉会 さんらいずホール内

0268-64-7201

E-mail: koyounet.nagano@gmail.com

貴事業所名

ワークサポートこすもす

調査実施月

2018年3月

調査担当者

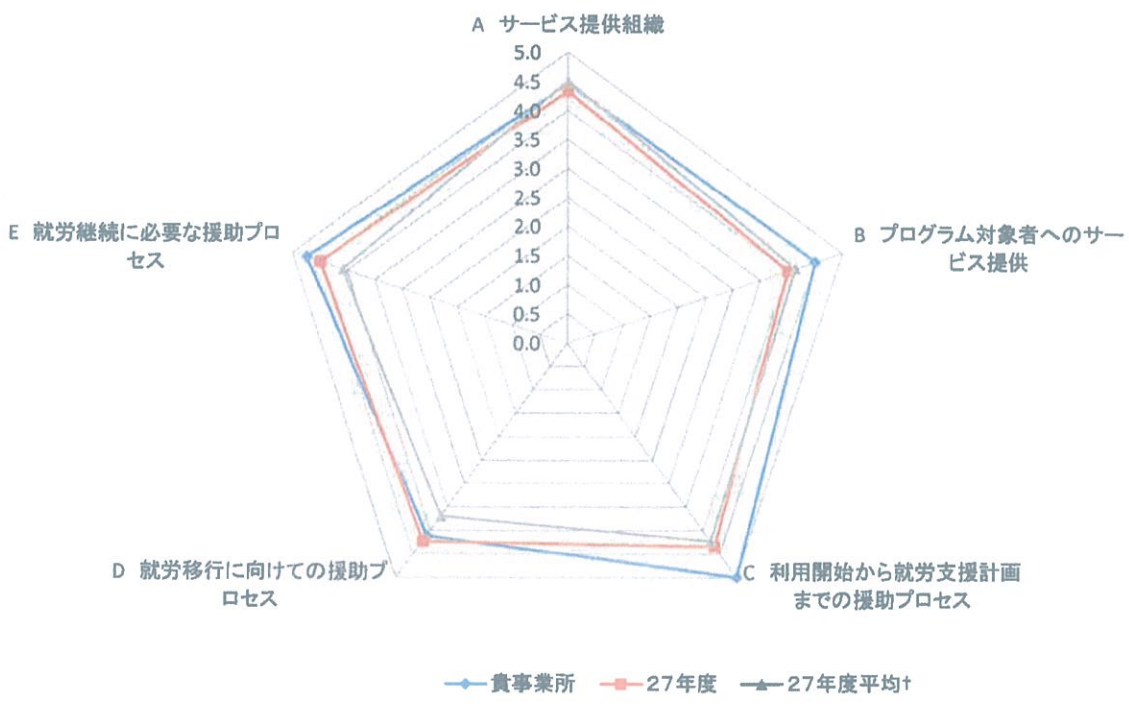
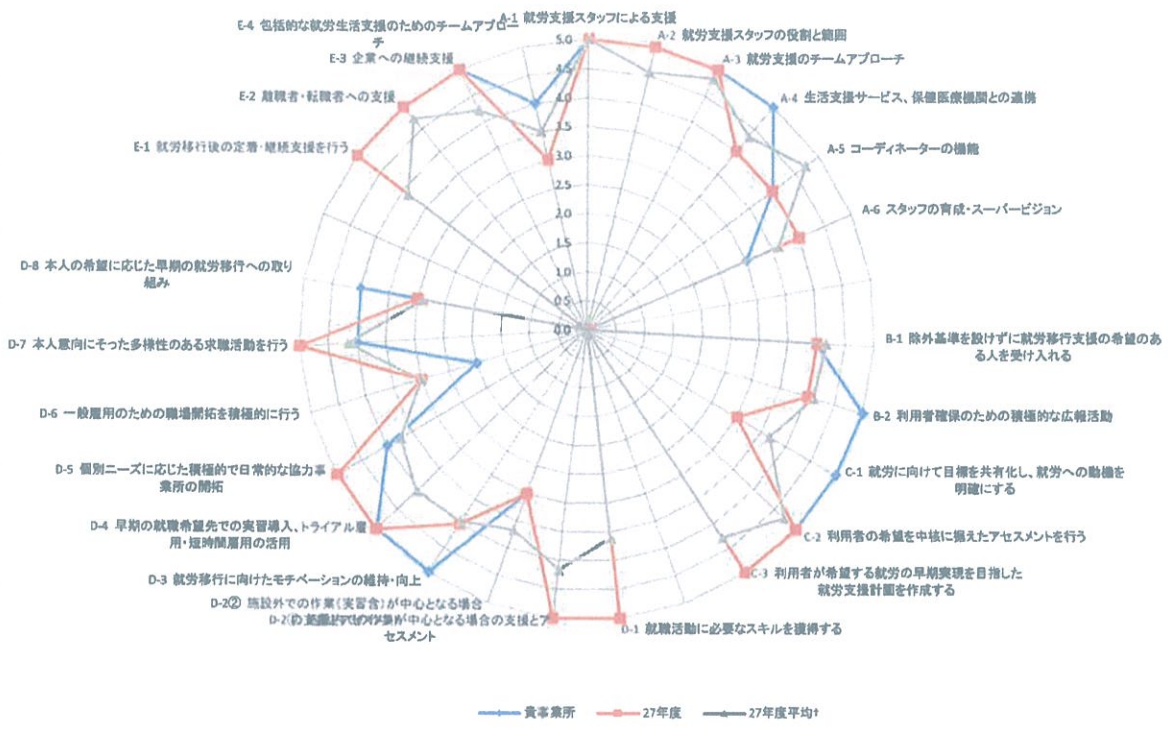
武蔵原

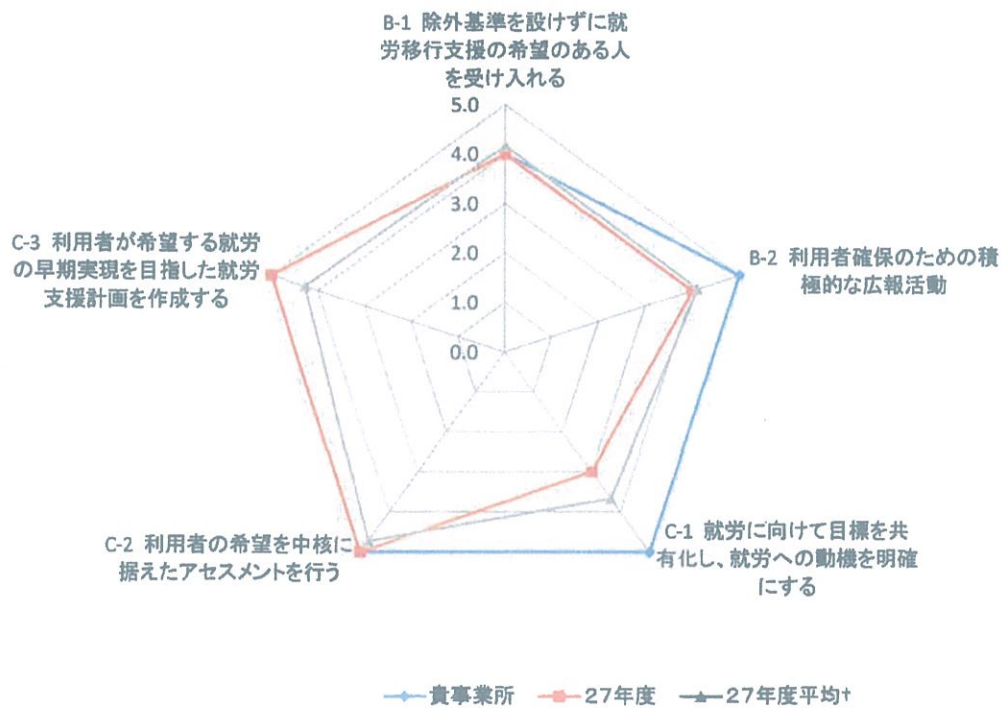
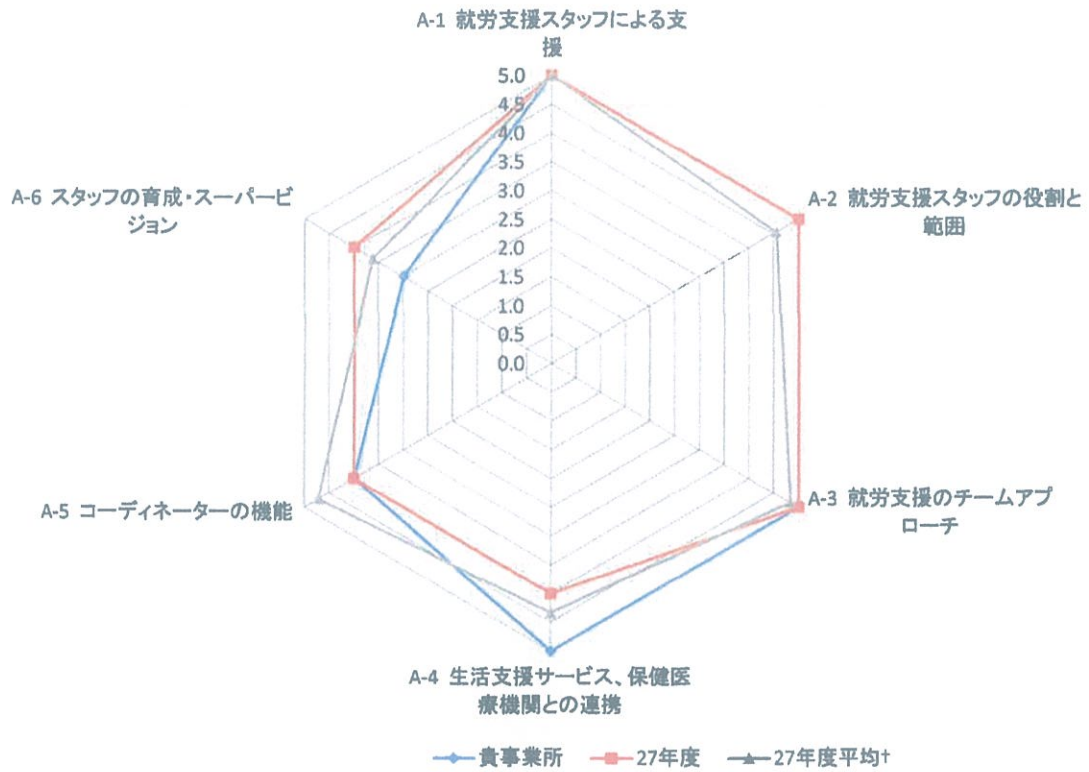
	貴事業所	27年度	27年度平均†
A-1 就労支援スタッフによる支援	5.0	5.0	5.0
A-2 就労支援スタッフの役割と範囲	5.0	5.0	4.6
A-3 就労支援のチームアプローチ	5.0	5.0	4.8
A-4 生活支援サービス、保健医療機関との連携	5.0	4.0	4.3
A-5 コーディネーターの機能	4.0	4.0	4.7
A-6 スタッフの育成・スーパービジョン	3.0	4.0	3.6
	貴事業所	27年度	27年度平均†
B-1 除外基準を設けずに就労移行支援の希望のある人を受け入れる	4.0	4.0	4.2
B-2 利用者確保のための積極的な広報活動	5.0	4.0	4.1
C-1 就労に向けて目標を共有化し、就労への動機を明確にする	5.0	3.0	3.7
C-2 利用者の希望を中核に据えたアセスメントを行う	5.0	5.0	4.7
C-3 利用者が希望する就労の早期実現を目指した就労支援計画を作成する	5.0	5.0	4.3
	貴事業所	27年度	27年度平均†
D-1 就職活動に必要なスキルを獲得する	5.0	5.0	3.6
D-2① 施設内での作業が中心となる場合の支援とアセスメント	5.0	5.0	4.2
D-2② 施設外での作業（実習含）が中心となる場合の支援とアセスメント	3.0	3.0	3.7
D-3 就労移行に向けたモチベーションの維持・向上	5.0	4.0	3.9
D-4 早期の就職希望先での実習導入、トライアル雇用・短時間雇用の活用	5.0	5.0	4.1
D-5 個別ニーズに応じた積極的で日常的な協力事業所の開拓	4.0	5.0	3.7
D-6 一般雇用のための職場開拓を積極的に行う	2.0	3.0	3.0
D-7 本人意向にそった多様性のある求職活動を行う	4.0	5.0	4.2
D-8 本人の希望に応じた早期の就労移行への取り組み	4.0	3.0	2.9
	貴事業所	27年度	27年度平均†
E-1 就労移行後の定着・継続支援を行う	5.0	5.0	3.9
E-2 離職者・転職者への支援	5.0	5.0	4.7
E-3 企業への継続支援	5.0	5.0	4.2
E-4 包括的な就労生活支援のためのチームアプローチ	4.0	3.0	3.5

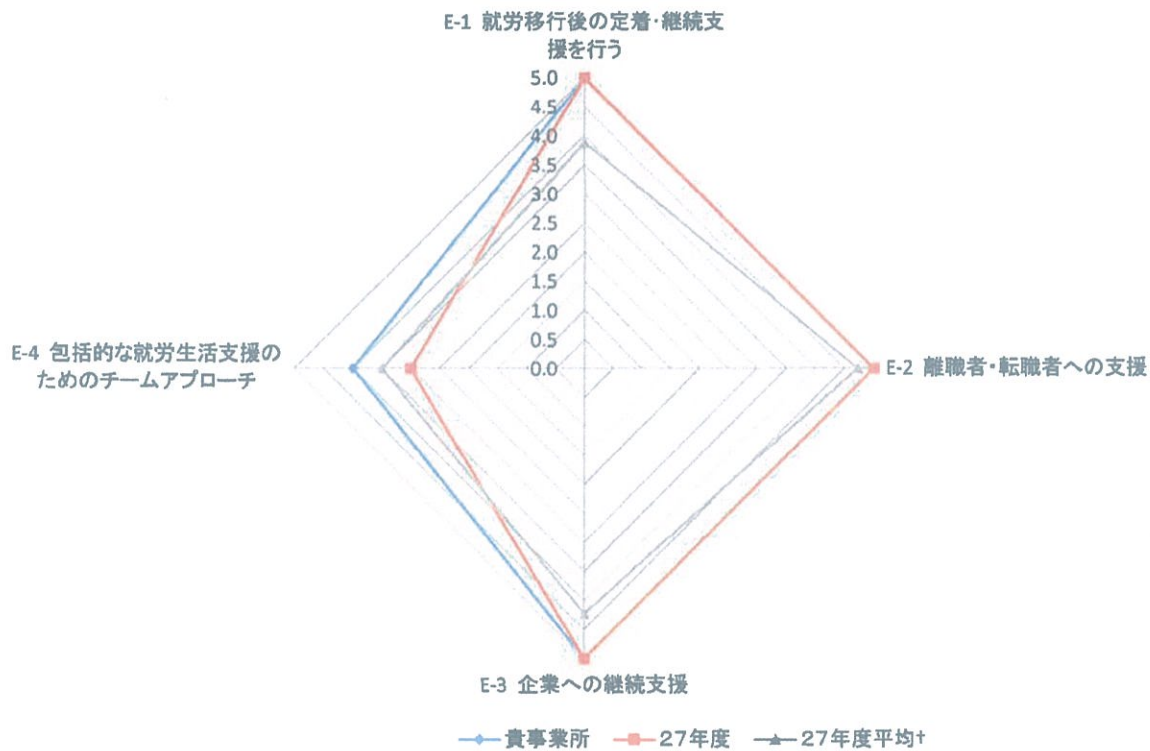
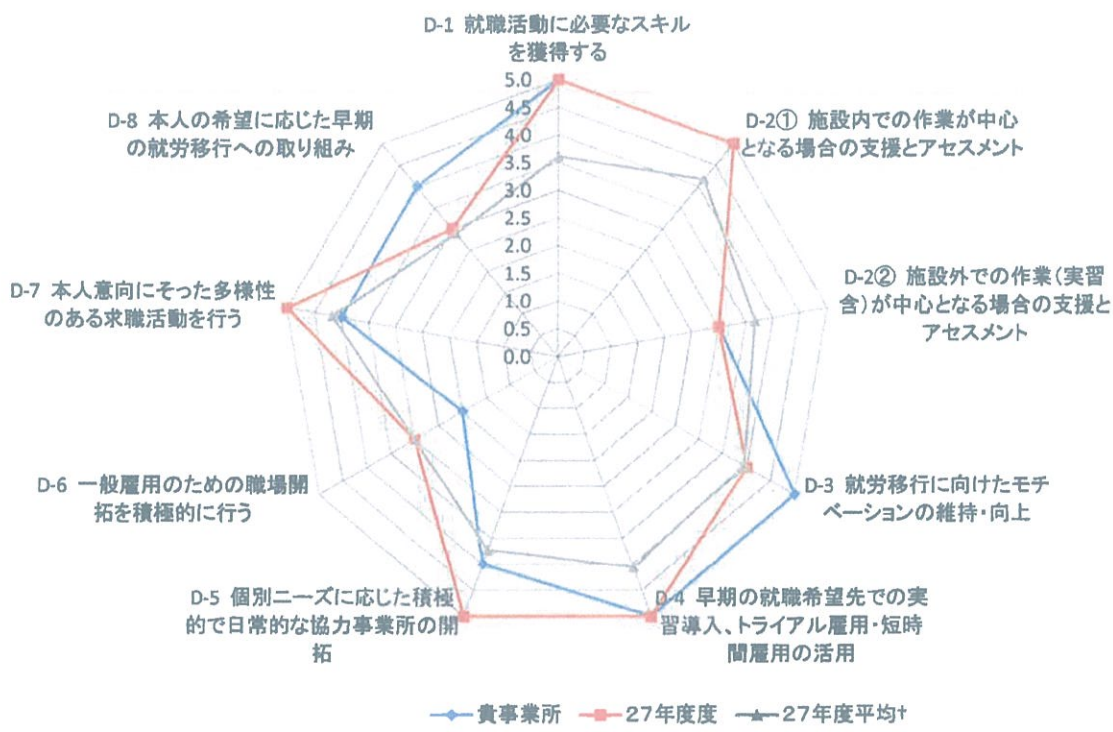
†長野県協力事業所18事業所のデータを用いた。

	貴事業所	27年度	27年度平均†
A サービス提供組織	4.5	4.3	4.5
B プログラム対象者へのサービス提供	4.5	4.0	4.1
C 利用開始から就労支援計画までの援助プロセス	5.0	4.3	4.2
D 就労移行に向けての援助プロセス	4.1	4.2	3.7
E 就労継続に必要な援助プロセス	4.8	4.5	4.1

†長野県協力事業所18事業所のデータを用いた。







今回の調査では大変お世話になり、誠に有難うございました。以下、貴事業所におけるチェックシート（フィデリティ尺度）から把握できる点を整理しましたので、ご確認ください。

27年度と比較して向上した項目

- 利用開始から就労支援計画までの援助プロセス（C領域）
 - ・ 就労に向けて目標の共有化し、就労への動機を明確にする
- 就労移行に向けての援助プロセス（D領域）
 - ・ 就労移行に向けたモチベーションの維持・向上
 - ・ 施設外での作業が中心となるアセスメント
 - ・ 本人の希望に応じた早期の就労移行への取り組み
- 就労定着のための支援（E領域）
 - ・ 包括的な就労生活支援のためのチームアプローチ

27年度と比較して減少した項目

- 就労移行のための支援（D領域）
 - ・ 個別ニーズに応じた積極的で日常的な協力事業所の開拓
 - ・ 一般雇用のための職場開拓を積極的に行う

支援の展開に向けて

- サービス提供組織（A領域）
 - ・ スタッフの育成・スーパービジョン
- 就労移行のための支援（D領域）
 - ・ 就職活動に必要なスキルの獲得への支援
 - ・ 施設外での作業を中心とした支援やアセスメント
 - ・ 就労移行への早期の取り組みおよび企業開拓

まとめ

27年度からの比較からも、全般的に取り組み内容が強化されていることが窺われます。利用開始から就職までのプロセスが明確になり、それぞれの訓練内容を通して「働く」意識・モチベーションの向上が図られているからだと考えます。数値的に減少となった項目についても、チェック項目の内容をよりシビアに捉えられた物と考えられますので、大きな課題にはあてはまらなると考えられます。

支援の発展に向けて、「スタッフの育成」、「他機関との連携」が今後の大きな発展につながる視点であると思われます。就労支援は、関係機関とのネットワークが重要だと言われています。「利用開始」から「職場定着」までのプロセスを更に明確にし、どの時点で、どの機関と連携をしていくのかを意識して行かれることが、企業開拓や生活面の支援の強化につながり、包括的な就労支援、定着支援が強化されていくと思われます。また、スタッフの育成については事業所全体のスタッフがプロセスを明確に持ち、見通しを持つことで日々の作業支援や座学等でのスキル獲得への支援や早期の就労移行への取り組みが向上し、利用者のモチベーションの向上へとつながり、就労移行への取り組みや定着支援が強化へとつながる可能性があります。当法人でも職員研修向けに「教える技術」「座学の進め方」「企業開拓」等の研修を行っております。企業開拓に向けた取り組みやより就職後を想定した関わり方につながるとお思いますのでご活用いただければと思います。

訪問調査で伺った内容や様子から、現在のチェックシートでは網羅しきれていない、貴事業所の強みがまだまだあるように感じております。今後のより一層のご活躍、そしてより一層の支援体制の「創造」をご期待申し上げます。

平成 30 年 3 月 22 日

多機能型事業所 ワークサポートこすもす

1. 課題（ヒント）抽出シートより

(1)テーマ

『地域社会資源性を含めた、業務の健全化、安定化を目指す』

(2)変革の目標

管理者のみの変革でなく、組織的並びに戦略的、効果的に目標を設定する

(3)段階的实施（変革）目標

- 1) 危機感を植え付ける
- 2) 変革推進をガイドするチームを作る
- 3) 変革のビジョンと戦略を作る
- 4) ビジョンを周知徹底する
- 5) 多数の参加者の自発的な取り組みを促す
- 6) 短期的な成果を生む
- 7) 前進を確認し、次の変革を起こす
- 8) 新しい方法を事業所文化に定着する

(4)強化方法

「組織・事業・人材・地域連携・財務活動」の視点から

	第 1 ステップ	第 2 ステップ	第 3 ステップ
・ 組織	①地域のアセス メント	①流入構造の把握	①職務権限の明確化
・ 事業		②業務の標準化	権限の委譲
・ 人材		③共創精神でネット	②NO 2 の育成
・ 地域連携		ワークの構築	③月次管理
・ 財務			